

平成27年度 石巻市
地域づくりコーディネート事業
事業実施報告

石巻市湊地区における 「住民互助型支援」の創出への取組み

2016年3月
特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会

(※) 住民互助型支援とは

本資料で言う「住民互助型支援」とは、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センター、NPO法人等が住民の自助・互助意識を醸成し、具体的な活動を生み出し、その活動に伴走をしていく支援のあり方をイメージしている。

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から5年が過ぎ、被災地石巻の各地域においては復興公営住宅建設や自立再建が進み、仮設住宅からの移住に向けた動きが見られます。

そのような中、高齢者を中心とした被災者においては、住まいの変化に伴う様々な新たな課題・支援ニーズが発生することが懸念され、それらに対する支援の必要性が認識されながらも支援の担い手不足による社会的孤立や生活不活発発病の発生リスクが高まることが予測されます。

一方、地域に愛着を持ち、多様な価値観を持つ住民が一定数存在し、彼（彼女）らが地域課題を把握し、互いに持つスキル・知識を活用した住民互助型のコミュニティが形成されれば現状の改善に大きく役立つものと考えます。

しかしながらそのようなコミュニティの必要性が認識されながらも主体的に活動を行う担い手はそれほど多くは顕在化していないのが現状です。

こうした状況を踏まえ、当法人は「平成27年度石巻市地域づくりコーディネート事業」の補助金を活用し、新たな地域コミュニティ形成のための互助活動の担い手の掘り起しと育成、組織化、そして育成した互助活動の担い手による活動の実践、およびそれらの一連の活動を通じた地域における「顔の見える関係」の構築を目的として事業を実施いたしました。

本書は、石巻市「（仮称）湊地区復興住宅」および同周辺地域において互助活動の担い手の掘り起こし当の活動を試行的に実施した成果を取りまとめたものです。本書の内容が住民互助型のコミュニティ形成に向けた取組みのヒントになり、誰もが住みやすい地域づくりのお役に立つものとなりましたら幸いです。

最後になりましたが、コアメンバー会議にご協力いただいた皆様、各種事業の運営にご協力いただいた皆様、各種事業にご参加いただいた地域住民や企業の皆様、また、本事業を遂行するために様々な助言をくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

2016年3月
特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会 代表理事

渡邊 智仁

本書の目次

I. 事業の背景と目的

1. 事業の背景
2. 事業の目的

II. 実施事業の概要

1. 事業全体の流れ
2. 住民主体型活動の参加者
3. 事業実施内容

III. 事業に対する評価

1. 本事業参加者向けアンケート結果
2. 地域課題解決事業の企画運営の実践 参加者への聞き取り調査結果
3. 地域課題解決事業の企画運営の実践 事務局職員への聴き取り調査結果

IV. 事業の総括と今後に向けた提言

1. 本事業の総括
2. 本事業を通じて得られた発見事実
3. 当法人における今後の取組み

I.事業の背景と目的

- 本章では、本事業における当法人の問題意識や事業の目的を記載した。
- 併せて、事業開始当初に設定した数値目標についても言及している。

1. 事業の背景

(1) 復興公営住宅への移住に伴い懸念される課題

- 2011年3月11日に発生した東日本大震災から5年が経過し、被災者の支援ニーズは、緊急時に対応する支援から長期的に生活を支えるものへと質的に変化していると考えられる。
- また、石巻市湊地区においては仮設住宅から復興住宅への移住に向けた動きが見られ、住まいの変化に伴う新たな課題（リロケーションダメージによる認知症の悪化、集合住宅での生活に不慣れなことによる近隣トラブルなど）が発生することが懸念される。
- さらに、仮設住宅から復興住宅への移住により、仮設住宅において形成されたコミュニティが崩壊し、仮設住宅入居直後と同様に、再び要フォロー者等の社会的孤立や生活不活発発病の発生リスクが高まることが予測される。

(2) 移住後に向けた必要な支援

- こうした現状に対し、サポート拠点や地域包括支援センターなどは移住に伴う課題や支援ニーズの変化に関する現状を把握し、直接的な支援を行っていくことが求められる。
- 加えて、恒久住宅として今後、長期に渡る生活が続く中で、住民が外部からの支援に依存してしまうことなく、互助力を高め、住民主体でコミュニティの再生を進めていく視点も重要となる。
- しかしながら、住民に対する直接支援は充実が図られる一方で、互助力の強化と住民のエンパワメントに重点を置いた支援活動は、行政関係機関も含めてそれほど見られない。

2. 事業の目的

(1) 本事業の目的

- 本事業は、石巻市「（仮称）湊地区復興住宅」入居予定者及び同住宅周辺地域の住民を対象に、新たな地域コミュニティ形成のための互助活動の担い手の掘り起しと育成、組織化を図る。
- 当該担い手人材が主導して「（仮称）湊地区復興住宅」入居予定者と周辺地域住民との交流イベントなどの事業を試行的に行い、今後の住民主体の活動の素地を形成するとともに住民間の「顔の見える関係」の構築を進める。

(2) 具体的な数値目標

- 復興住宅入居予定者や同住宅周辺地域の住民等の中から住民主体によるコミュニティ形成活動の担い手を掘り起し、育成を行う（住民互助の中核人材の掘り起し・育成：10名程度を目標とする）。
- 担い手の組織化を図り、当該担い手によるコミュニティ形成活動の企画立案と試行を行う（住民主体による地域課題解決のための事業の実施：交流支援などのイベント回数2回程度の開催を目標とする）。

目標項目	内容	数値目標
住民互助の中核人材の掘り起こし・育成	本事業におけるセミナー等を通じて掘り起こされた住民互助型の交流イベント等の企画運営に携わる人材の数	10人
住民主体の地域課題解決に向けた事業実施	上記の人材を中心として実施する地域課題解決のためのイベント等の開催回数	2回開催

II.事業実施概要

- 本章では、事業実施概要として、事業全体の流れ（フロー図）、事業全体の進め方等についてご助言をいただいたコアメンバー会議の状況を記載した。
- また、本事業において実施した「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」「②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」「③地域課題解決事業の企画運営の実践」の概要を整理した。

1. 事業全体の流れ

本事業では、前述の事業目的の達成に向けて、「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」「②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」「③地域課題解決事業の企画運営の実践」という大きく3つの事業を実施した。

当法人企画・運営の交流イベント(落語コンサート・茶話会等)

住民向け事業の「お手本」提示

①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー

【事業内容】：互助活動の担い手となることに興味・関心のある復興公営住宅入居者予定者および周辺地域住民の掘り起しを行う。

【実施時期】：2015年9月～2015年11月

【事業対象】：湊町1丁目地域住民、近隣住民、復興住宅入居予定者

②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座

【事業内容】：互助活動をリードする人材を育成するため、生活課題の把握手法や活動企画の立案などについて実践的な講義を行う。

【実施時期】：2015年11月～2016年1月

【事業対象】：①のセミナー参加者のうち希望する方

③地域課題解決事業の企画運営の実践

【事業内容】：実施計画②の受講者が、復興住宅入居予定者間および同住宅周辺住民との交流事業を実際に企画・運営する。

【実施時期】：2016年2月～2016年3月

【事業対象】：②のセミナー参加者のうち希望する方

コメンタリー会議
助言・内容協議・活動参加

事業成果の取りまとめ

- 事業に参加した地域住民に対するアンケート調査結果、ヒアリング調査結果の取りまとめ
- 住民互助型支援の創出に向けた課題と対応策の整理
- 住民互助型支援の創出に向けた提言、来年度以降の取組みの方向性検討

2. コアメンバーの選定とコアメンバー会議の内容

本事業では、地域の実態に即した啓発セミナーや人材の掘り起こしを行うことを目的として、地域の地縁団体役員、ボランティア活動メンバー、地域住民などによるコアメンバー会議を組成し、同メンバーと協議をしながら事業を進めていった。

また、コアメンバーについては、前ページの①～③の事業に対し、積極的に参画をしてもらうよう依頼した。コアメンバー会議への参加者および会議各回の協議事項は、以下の通りである。

コアメンバー会議 参加者（敬称略）

氏名	所属
佐藤 彰	みなといち会(湊町一丁目)会長
櫻谷 靖雄	零羊崎神社
高橋 香奈	湊地域包括支援センター所長
畠山 きよ子	大橋AKB代表（ボランティアサークル）
稲井 範子	大橋AKBメンバー 湊町一丁目復興公営住宅入居予定者
渡邊 智仁	NPO法人ぱんぷきんふれあい会代表理事
渡邊 篤子	NPO法人ぱんぷきんふれあい会事務局
菅野 江里子	NPO法人ぱんぷきんふれあい会事務局

コアメンバー会議 協議内容

開催日	場所	協議内容
2015年 10月7日	総合福祉会館 みなと荘	<ul style="list-style-type: none"> • 事業のスケジュールに関する報告 • 交流イベントの開催告知方法の検討 • 今後の情報共有の方法の検討 • 意見交換
2016年 1月21日	総合福祉会館 みなと荘	<ul style="list-style-type: none"> • 活動の進捗状況報告 • 今後のスケジュール検討 • 意見交換

- 上記2回のコアメンバー会議以外にも、コアメンバーとは適宜打合せを行いながら事業を進めていった。
- また、各種セミナー等の周知啓発においても、コアメンバーに協力をいただいた（回覧板への資料添付、口コミなど）

3. 事業実施内容

本事業で実施した「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」「②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」「③地域課題解決事業の企画運営の実践」の実施概要は、以下の通りである。

①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー

開催日	場所	内容	参加人数
2015年11月13日	総合福祉会館 みなと荘	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県の「NPO法人校舎のない学校」から小林月子氏（同法人理事、サンヴィレッジ国際医療福祉専門学校校長、岐阜大学名誉教授）を講師として招聘 「プロ住民を地域で創るライフサポーターのすゝめ」と題する講演会を開催した。 	29名

②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座

開催日	場所	内容	参加人数
2016年2月29日	石巻市吉野町 on the corner	<ul style="list-style-type: none"> 午前と午後の2部構成で実施 午前は、岐阜県の「NPO法人校舎のない学校」で活動するボランティアスタッフを招聘し、住民主体の地域互助活動の実践事例報告を開催。 午後は、参加者によるグループワークを通じ、湊地区の地域課題の洗い出しと具体的な対応策の検討を行った。 	午前:15名 午後:12名

③地域課題解決事業の企画運営の実践

開催日	場所	内容	参加人数
2016年3月23日	石巻市吉野町 on the corner	<ul style="list-style-type: none"> 上記②で提示した地域課題への対応策について、地域住民の企画運営による交流イベント（カラオケ大会）を開催した。 	34名（うち企画運営側で参画した地域住民9名）

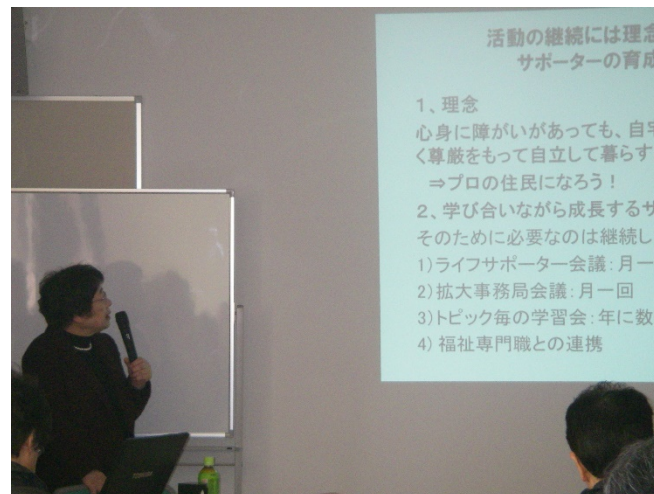
(参考)当法人企画・運営の交流イベント

本事業において、地域住民に対して各種活動の企画・運営の「お手本」を示すために実施した当法人主催・企画・運営のイベントは、以下の通りである。

開催日	活動内容	場所	参加者数
9月4日	□ 健康教室「ふまねっと教室」(※)	鹿妻南コミュニティハウス	10名
9月25日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	10名
10月10日	□ 健康教室「ふまねっと教室」交流イベント	石巻市吉野町 on the corner	18名
10月16日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	11名
10月26日	□ お笑いライブ&ALSOK防犯教室の開催	石巻市吉野町 on the corner	34名
11月6日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	13名
11月11日	□ ふまねっとサポーター養成講座	石巻市吉野町 on the corner	7名
11月20日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	20名
12月2日	□ 交流イベント「音楽交流会」(沖縄音楽等)	石巻市吉野町 on the corner	47名
12月4日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	16名
12月16日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	石巻市吉野町 on the corner	17名
12月18日	□ 健康教室「ふまねっと教室」の開催	鹿妻南コミュニティハウス	19名
12月31日	□ 年越しイベント(初詣に出かける地域住民向けに休憩場所とお汁粉提供)	石巻市吉野町 on the corner	13名
1月21日	□ 新春落語会(三遊亭圓丸師匠)	総合福祉会館 みなと荘	101名
1月29日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	15名
2月4日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	石巻市吉野町 on the corner	20名
2月5日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	19名
2月17日	□ ふまねっとサポーター養成講座	石巻市吉野町 on the corner	5名
2月19日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	22名
3月4日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	18名
3月10日	□ みなと地区復興祈願祭(秋田県神道青年協議会)	石巻市吉野町 on the corner	48名
3月25日	□ 健康教室「ふまねっと教室」交流イベント	鹿妻南コミュニティハウス	20名

※「ふまねっと」とは、北海道教育大学釧路校の北澤一利教授が開発した、認知症予防と介護予防に有効なデュアルタスク運動のことである。

3. 事業実施内容(活動風景:①意識啓発セミナー)



- 意識啓発セミナーにおいては、岐阜県の「NPO法人校舎のない学校」から小林月子氏（同法人理事、サンヴィレッジ国際医療福祉専門学校学校長、岐阜大学名誉教授）を講師として招聘し、「プロ住民を地域で創るライフサポーターのすゝめ」と題する講演会を開催した。
- 当日は29名が参加し、住民の互助活動により高齢者等へ生活支援サービスを提供するライフサポート事業の概要とその背景にある考え方について学んだ。

3. 事業実施内容(活動風景:②実践講座)



- 当日の実践講座は、午前と午後の2部構成で実施した。
- 午前には、岐阜県の「NPO法人校舎のない学校」のスタッフを招聘し、住民主体の地域互助活動の実践事例報告を聴講した。
- 午後には、参加者によるグループワークを実施し、湊地区の地域課題の洗い出しと具体的な対応策の検討を行った。
- 午後のグループワークでは、外出の難しさ、地域住民間の顔の見える関係づくりなどが課題として挙げられ、課題解決の第一歩として、「**地域の住民が気軽に集まれる機会の創出**」が必要との意見が出された。

3. 事業実施内容(活動風景:③企画運営の実践)



- 先のグループワークで示された「**地域の住民が気軽に集まれる機会の創出**」という取組みの方向性を踏まえ、グループワークに参加した地域住民と当法人の職員が協力して住民向けイベントの企画立案を行った。
- 検討の結果、復興公営住宅近辺の多目的スペースにおいて、「カラオケ大会」を開催することとし、各種開催準備を実施した。
- 最終的に34名が参加し、住民間の交流促進、企画運営側で参画した住民の互助意識の向上などが図られた。

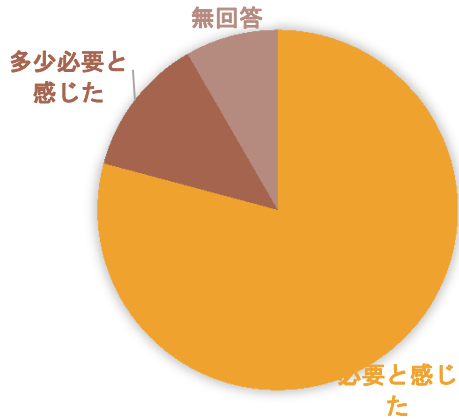
III.事業に対する評価

- 本章では、本事業に参画をいただいた地域住民の方々や事業運営に従事した事務局スタッフによる事業に対する評価、所感を記載した。
- 「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」および「②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」については、セミナー終了後に実施した参加者アンケートの結果を掲載した。
- また、「③地域課題解決事業の企画運営の実践」は、事業終了後に行った企画運営メンバーへのヒアリング結果を記載した。

1. 本事業におけるセミナー等参加者アンケート結果

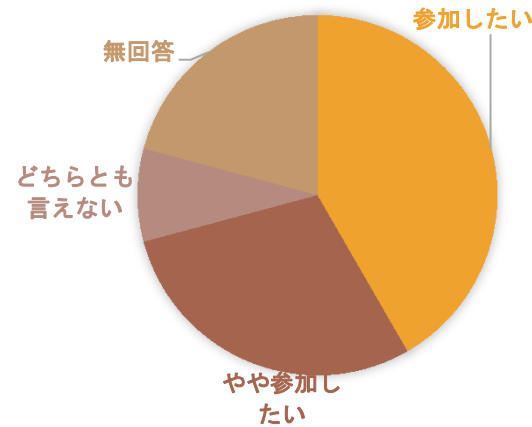
(1) 「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」参加者からの回答 (n=24)

互助活動の必要性理解



意識啓発セミナー受講後における「互助活動の必要性」に関する設問への回答状況を見ると、全回答者24名中19名が「必要と感じた」、3名が「多少必要と感じた」と回答していた。

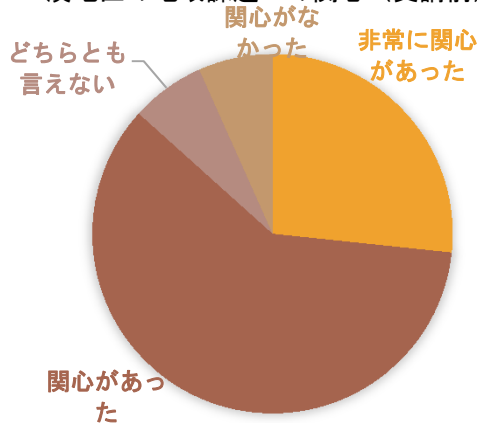
互助活動への参画意向



今後の住民間での互助活動に対する参加意向について見ると、全回答者24名中10名が「参加したい」、また、7名が「やや参加したい」と回答していた。

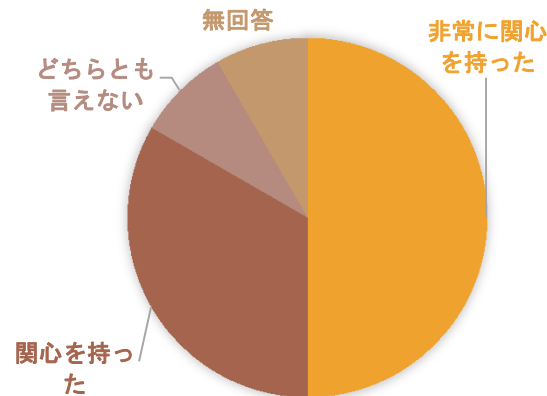
(2) 「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」参加者からの回答 (受講前n=15 同後 n=12)

湊地区の地域課題への関心 (受講前)



実践講座に参加する前の段階における湊地区の地域課題への関心の有無について見ると、全15名中9名が、「関心があった」と回答し、件数として最も多くなっていた。

湊地区の地域課題への関心 (受講後)



実践講座終了後における湊地区の地域課題への関心の有無について見ると、全12名中6名が「非常に関心を持った」と回答をしており、回答数として最も多くなっていた。

2. 「地域課題解決事業の企画運営の実践」参加者への聴き取り調査結果

項目	参加者の感想(要約抜粋)
住民主体のイベントを開催した感想	<ul style="list-style-type: none"> • 色々と手探り状態で進めてきたが、参加者の楽しそうな顔を見て成功したという手ごたえを感じた。 • 今後ずっと続けていくのは大変だとは思いますが、皆さんの喜ぶ顔を見るとやって良かったと思う。 • 参加した方々に喜んでもらい、自分も楽しめて良かった。ふれあいの場を望んでいる方が多いと感じた。
今後必要と考える交流企画	<ul style="list-style-type: none"> • カラオケ、手芸教室など物を作る教室、趣味を発表する場があってもいいのかもしれない。 • 体を動かさず教室も必要になってくる。 • 演芸も皆さんにはとても喜ばれる、体で感じることも大切なので笑いというのはいいと思う。 • 運動などは負担に感じる人もいる。何か特定のものに絞らず、色々と幅広くやって行けば良いのではないか。 • (転居して来たために) 湊地区のことが分からないから外に出づらくなったという方が、外に出るきっかけになるようなイベントを考えたい。 • 今回開催告知をした地域外からも参加者があった。今後事業を行う際には、告知のエリアをもう少し広げていった方が良くもしい。
同様の活動を行う上での課題、必要なサポート	<ul style="list-style-type: none"> • 市やNPOが主体となり地域住民が手伝うという形は問題ないが、地域住民単独では今回のような活動は難しいのではないか。 • 毎月定期的に集まって会合をしてとなってくると負担も感じるし、やれる人がそれほどいるとは思えない。 • 自由でゆるやかな組織である事が大切。集まれる人達が集まれる時に集まるという形がよい。 • 自分達でやらなくてはいけないという気持ちもあるが、そこを支えてくれる存在は必要になると思う。

3. 「地域課題解決事業の企画運営の実践」事務局職員への聴き取り調査結果

項目	事務局職員の感想(要約抜粋)
住民主体の事業を支援した上での感想	<ul style="list-style-type: none"> 参加者からの感謝の言葉が、ボランティアの「次回もやってみよう」という気持ちにつながっていると感じた。 グループワークでの話し合いや、人の前で話をするという事になると、抵抗感のある方はまだまだ多い。その意識を変えていくための仕掛けが必要になると感じた。 無理のない緩やかな参加の仕方が必要だと思う。
今回の反省点	<ul style="list-style-type: none"> チラシの配布に関して、湊地区に知り合いの多い方達がやってくれたので、人が集まったと感じた。我々では、地域の人達と知り合い、イベントに来てもらうまでに時間もかかる。そこを間に入れていただくことで、いつもよりも早く関係性が築けるのではないかと感じた。 事務局としてはボランティアの方達との信頼関係を築くことが一番で、関係性がきちんとできていれば、お互いに楽しくあまり負担を感じずに準備や会合ができる。 開催する時期や準備の時期を考える必要がある。特に年配の方は彼岸等の行事を大切にしている。そこにイベントや準備の期間が当たらないようにする必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、ボランティアをする側だけにいるのは、よほど意識の高い方でないと難しい。 中心になるのはNPO法人等で、そこを地域住民に助けていただきやっていくというのが現時点では理想的なのではないかと感じた。 ボランティア同士のミーティングでは、お互いの意見の違いで多少のイライラなどを感じる場面もある。その時に我々が間に入ってフォローし、よりよい方向に進めるように持っていき、そういう技術が伴走者としての事務局には必要。 成功体験があるからこそ次にまたやってみたいと感じるのではないかと。我々と一緒にイベントをやっているうちに少しずつ、自分達でできるようになっていくのではないかと。 行政には資金援助を期待したい。また、イベント等に顔を出し、参加者の生の声を聞いていただくとうい。 今回、運営側で参加いただいた方が高齢の女性が多く、より幅広い世代にも参加してもらえると活動の幅の広がりが生まれ、本事業では見えてこなかった地域課題などが明らかになるのではないかと。

IV.事業の総括と今後へ向けた提言

- 本章では、ここまでの内容に基づき本事業の総括を記載した。
- また、事業を通じて得られた気づきや発見事実を踏まえ、「住民互助型支援」を行う上で必要な支援団体の取組みについて、いくつかの提言を整理した。

1. 本事業の総括

- 本事業においては、当初に住民主体の活動をリードしていく人材の育成・掘り起こし（10名程度の掘り起こし・育成）と同人材の企画・運営による地域課題解決のための事業を実際に開催すること（2回開催）を当初の目標として設定した。
- 事業の結果、「②互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」においては12人（午後）、「③地域課題解決事業の企画運営の実践」においては9人の地域住民の参加を得られた。
- これらの参加者からは、今後も地域における活動に関わっていきたいとの意向が示された。
- また、住民主体による交流イベントについても2016年3月に開催し、来年度以降も継続して同様の取組みを実施していく動きが見られる。
- 上記の点を踏まえれば、本事業の当初目標はおおむね達成できたものと考えられる。

目標項目	内容	数値目標	実績値
住民互助の中核人材の掘り起こし・育成	本事業におけるセミナー等を通じて掘り起こされた住民互助型の交流イベント等の企画運営に携わる人材の数	10人	実践講座受講者：12名 企画運営の実践者：9名
住民主体の地域課題解決に向けた事業実施	上記の人材を中心として実施する地域課題解決のためのイベント等の開催回数	2回開催	開催回数1回 ただし平成28年度中の早い段階で2回目を開催する予定

2. 本事業を通じて得られた発見事実

■住民は地域の生活支援サービス等の担い手となりうるか？

- 地域には、生活支援サービスにおける互助の重要性を認識をしている住民が一定数存在している。
- ただし、こうした住民については互助活動の主要メンバーにはなりうるものの、現状において完全に住民単独で活動を進めていくことは難しいと考えられ、何らかの「伴走者」が必要となる。

■伴走者は誰が担うべきか？

- 伴走者は、生活支援サービスに関する企画運営のノウハウを持ち、また、一定の信頼性を有する組織が担うことが適しているものと考えられる。
- 第一義的には市区町村や社会福祉協議会、NPO法人などが候補となるが、地域に密着した事業を展開している介護事業者や商工業事業者なども担い手として考えられる。
- 特に高齢化が進む地域において住民と接する機会の多い医療福祉職の専門知識を、生活支援サービスの創出に生かす仕組みを構築することで、見守り・安否確認や介護予防などのサービスにおける質の向上につながる可能性がある。

■「住民」と「伴走者」の役割分担はどのように行うべきか？

- 生活支援サービスの創出に住民が参画することの大きな強みは、当事者として地域課題・生活支援ニーズを抱いている点と住民間のネットワークを有する点にあり、こうしたニーズやネットワーク資源はNPO法人等にはないものである。
- 互助活動に参画する住民の強みを生かす形で、地域課題の掘り起こしや自治会等の地域の主体と直接接する役割については住民が担い、各種事業の企画、運営、告知などに関するプロジェクトマネジメントをNPO法人等の伴走者が行う形が妥当と考えられる。
- また、NPO法人等の伴走者においては住民の持つサービスニーズを引き出すファシリテーターとしての役割や住民間の対立が生じた場合の利害調整などの役割を果たすことも期待される。

3. 当法人における今後の取組み

■住民互助活動の継続（成功体験の積み重ね）

- ・ 本事業で掘り起こし・育成を行った人材を軸に住民互助型の事業を継続し、成功体験を積み重ねていくことにより、活動主体となる住民個々の自信を醸成する。
- ・ その上で、伴走者がいない状態であっても住民主体の活動が行われるような地域風土を形成していく。
- ・ また、石巻市湊地区内での活動エリアの拡大、湊地区以外への活動エリアの拡大についても検討を図る。

■多様な互助活動参加者の掘り起こし

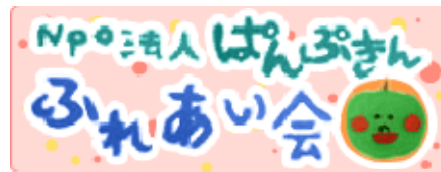
- ・ 本事業において互助活動に参加いただいた方々は、高齢層の女性が中心であった。しかしながら、生活支援ニーズを抱えている世代は高齢者だけではなく、現役世代も様々なニーズを有しているものと考えられる。
- ・ そこで今後は、子育て世代や中高生等のより若い世代、男性の高齢者など多様な参加者の掘り起こしを行い、互助活動へつなげていくための取組みを進めていく。

■先行事例のノウハウ習得

- ・ 本事業で講師として招聘した岐阜県の「NPO法人校舎のない学校」など、住民互助型支援の組織づくりを進めている先行事例を調査し、より効率的かつ効果的な事業運営に向けてそれらの事例におけるノウハウ等を習得し、活動に反映する。

■「伴走者」の資金面の問題への対応策検討

- ・ 本事業においては、石巻市の補助事業を活用して住民のエンパワーメントに向けた取組みを実施した。
- ・ 仮に行政からの資金面での補助等がない状態で、今回のような事業を継続的に進めていくための方策について検討をしていく必要がある。
- ・ 当法人における他の収益事業と連動した事業モデルの検討、生活支援サービス等の受益者である住民からの料金の徴収のあり方などについて、今後、研究を進めていく。



- 最後までご覧いただき、ありがとうございました。
- 内容についてご不明な点等がございましたら、下記までお問合せください。
- 本書のPDFファイルにつきましては、当法人ホームページからダウンロードをいただけます。

特定非営利活動法人ばんぷきんふれあい会（代表理事：渡邊 智仁）
〒986-0865 宮城県石巻市丸井戸三丁目3番8号
TEL：0225-96-7845 / FAX：0225-93-4871
電子メールアドレス：t-pump@pumpkin-kaigo.jp
ホームページURL：<http://www.care-net.biz/04/pumpkin/>
担当：渡邊、菅野